

下宿生のアルバイト職種

脇谷 和明

今回、大阪教育大学第一部の学生に「アルバイトに関するアンケート調査」を実施したところ 190 名の回答が得られた。高校生とは異なって、大学生のアルバイトを特徴付けるもののひとつに、「一人暮らしのアルバイト」があると思われる。また、一口にアルバイトといっても多様な職種がある。

そこで、この調査報告では以下の 2 点を主題とする。

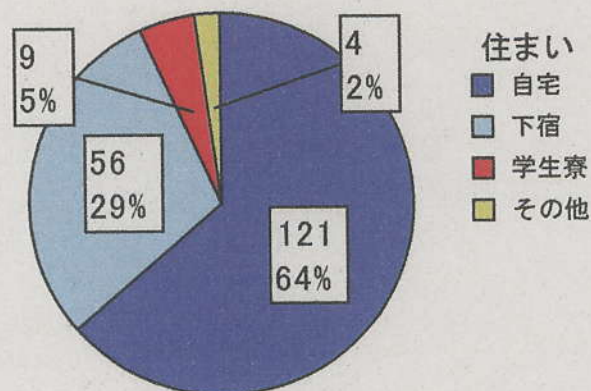
- (1) 下宿生のアルバイト職種は、自宅生のそれとどのように違うのか
(2) その違いは単に住居による違いではなく、他の要因があるのではないか

(1) 下宿生のアルバイトの特徴

1. 住宅事情

まず、回答者たちの住宅事情を見てみよう。

図 1 住居の比率



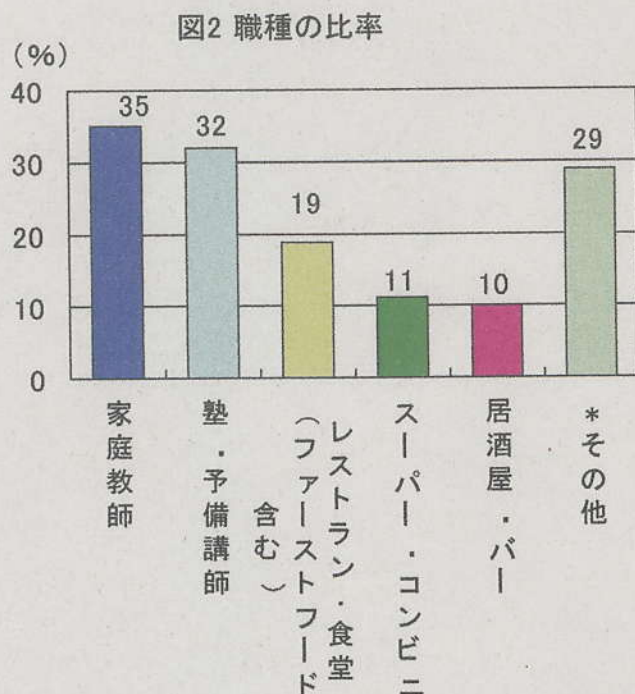
今回の調査で【自宅】と回答した者が 64%、【下宿】が 29%、【学生寮】が 5%、【その他】が 2%であった [図 1]。つまり、回答者全体の約 3 分の 1 は自宅以外の場所で生活していることになる。また、【その他】と回答した者のうち、具体的には 1 名が無回答、1 名が「彼女んち」、2 名が「祖母の家」と回答していた。

2. アルバイトの職種

次に、回答者たちのアルバイトの職種について見てみよう。下記の図2・表1には、アルバイトの掛け持ちで複数回答しているものが含まれていることを断っておく。

表1 アルバイトの職種（詳細）

	度数	割合
家庭教師	53	35%
塾・予備校講師	49	32%
レストラン・食堂 (ファーストフード含む)	29	19%
スーパー・コンビニ	17	11%
居酒屋・バー	15	10%
保育	4	3%
事務	5	3%
スポーツインストラクター	4	3%
受付・ボーイ	2	1%
運送・配送	2	1%
仕分け・包装	1	1%
その他	26	17%
合計	152	136%



*度数が10未満のものも「その他」として扱っている

アルバイトの職種で一番多いのは「家庭教師」の35%であった。以下は「塾・予備講師」の32%、「レストラン・食堂（ファーストフード含む）」の19%、「スーパー・コンビニ」の11%、「居酒屋・バー」の10%と続き〔図2〕、上位2つの「家庭教師」「塾・予備講師」で過半数を超えていた。

「その他」とは「販売員」が5名、「模試の採点」が2名、「工事」「パン屋」「カラオケ」「SS」「ネットカフェ」「酒屋」「公務員」「工員」「USJ」「現場」「短期」「ドラッグストア」「誘導する人」「服屋」「パチンコ屋」「コンサートスタッフ」「ナース」「ツタヤ」と回答した者がそれぞれ1名ずつ、そして無回答が1名であった。

3. 下宿生のアルバイト職種の特徴

それでは、住居が自宅であるか自宅以外であるかによって、アルバイト職種がどのように異なるかを見ていこう。

表 2 住居と職種

		塾・予備講師	家庭教師	レストラン・食堂（ファーストフード含む）	居酒屋・バー	スーパー・コンビニ	その他	合計
自宅	度数	40	37	21	5	11	23	137
	割合	38%	36%	20%	5%	11%	22%	100%
自宅以外	度数	9	17	8	10	6	20	70
	割合	19%	35%	17%	21%	13%	41%	100%

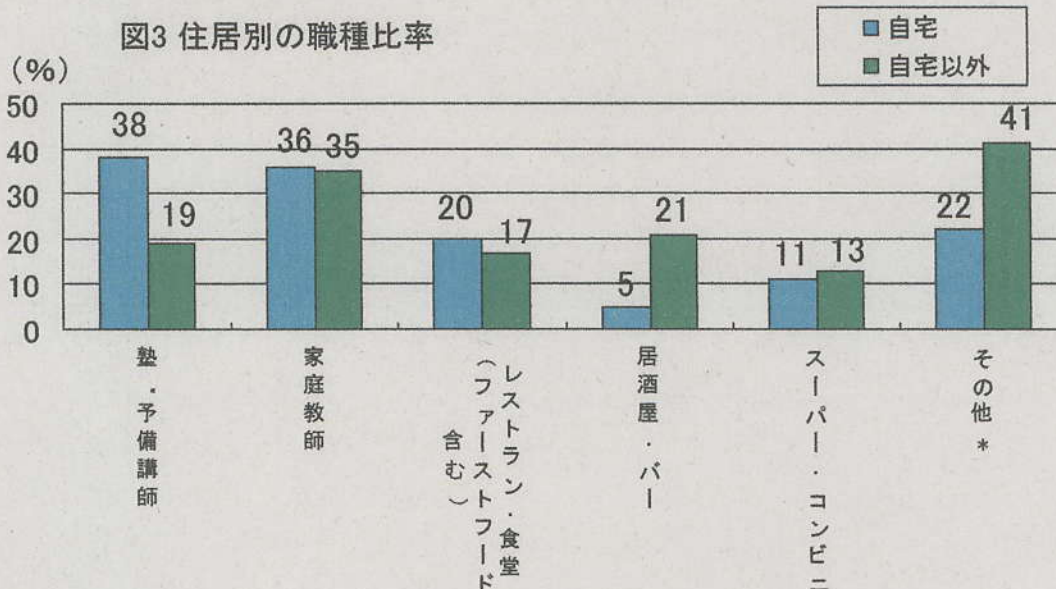


図3・表2は住居の違いによる職種の差異を示したものであるが、ここには図2・表1と同様に、アルバイトの掛け持ちで複数回答しているものが含まれている。

上位3位の職種は【自宅】では「塾・予備講師（38%）」「家庭教師（36%）」「レストラン・食堂（ファーストフード含む）（20%）」で、【自宅以外】では「家庭教師（35%）」「居酒屋・バー（21%）」「塾・予備講師（19%）」であった。

【自宅】で1位の「塾・予備講師」は【自宅以外】でも3位であるが、両者で倍の違いであり、【自宅】と比べて【自宅以外】では「居酒屋・バー」が圧倒的に多いことが分かる。

表3 図3および表2の「その他」の内訳

		運送・配送	仕分け・包装	事務	受付・ボーイ	スポーツインストラクター	保育	その他	合計
自宅	度数	1	0	4	0	3	2	13	23
	割合	1%	0%	4%	0%	3%	2%	13%	22%
自宅以外	度数	1	1	1	2	1	2	12	20
	割合	2%	2%	2%	4%	2%	4%	25%	41%

また、図3・表2の「その他」は、自宅・自宅以外を合わせて度数10未満のものも「その他」として扱っている。その「その他」の内訳は表3のとおりで、表3の「合計」は図3・表2の「その他」と一致する。

すると、もともとの「その他」と回答した割合は【自宅】より【自宅以外】の方が12ポイント多く、さらに少数回答も含めた「その他（表3の合計）」の割合では19ポイントも多くなり、【自宅以外】の方がより様々な職種でアルバイトをしていることが分かる。

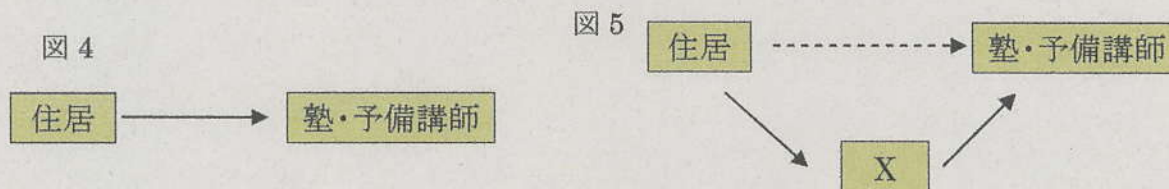
以上から、【自宅以外】の特徴は、【自宅】に比べ、

- ①「塾・予備講師」の占める割合が半数である。
- ②「居酒屋・バー」の占める割合が4倍近い。
- ③「その他」の占める割合が高く、より様々な職種でアルバイトをしている。

ということが分かった。

(2) 考察

ここからは、特徴①について考察を深めてみよう。



ここまでの結果は、住居と職種のあいだに相関関係があることを意味している。この相関関係が因果関係でもあるとするのであれば、住居は変えにくい職種は変えやすいという点から、「住居→職種」という因果関係の方がありそうである。[図4]

では、どのようにして住居が職種に影響を及ぼすのだろうか。以下、図5で示される「X」のような第3の要因を検証していこう。

1. 検証①「掛け持ち率」

「塾・予備講師」「家庭教師」は、週1日で行うことも可能であり、他の職種に比べて週当たり少ない日数で行うこともできる。そのため、他のアルバイトと掛け持ちがしやすい職種であると思われる。そこで、アルバイトの掛け持ちについて考えてみよう。

表4 アルバイトの掛け持ち率

	1	2つ以上	合計
度数	104	47	151
割合	69%	31%	100%

表5 住居とアルバイトの掛け持ち

		1つ	2つ以上	合計
自宅	度数	68	35	103
	割合	66%	34%	100%
自宅以外	度数	36	12	48
	割合	75%	25%	100%

表4から分かるように、アルバイトを2つ以上すると回答した者は全体で31%だった。これを住居別に見たものが表5であるが、掛け持ち率は【自宅】で34%、【自宅以外】で25%となっており、アルバイトを掛け持ちしている人の割合は【自宅】よりも【自宅以外】の方が、9ポイント少ないことが分かる。

ここで、表5から住居と掛け持ち率のあいだには相関関係があることが分かるが、これは先程の「住居→職種」の因果関係を示した同様の理由から「住居→掛け持ち率」という因果関係であると考えられる。つまり、【自宅】であることによって、掛け持ちがしやすくなるということを示しているのである。

これは、図5の「X」に掛け持ち率を代入したとき、左側の矢印が引けることということである。そこで、もし右側の矢印も引けるのであれば、次の仮説が構成できる。

仮説①：掛け持ちのしやすい【自宅】は、「塾・予備講師」の掛け持ち率が高いために、【自宅以外】に比べて「塾・予備講師」をしている人が多い。

これを調べるためには、まず「掛け持ち率」と「職種」との相関関係を調べればよい。そして、「塾・予備講師は、掛け持ちをしている人の方が多い」という相関関係が得られればよいのである。

表6 「塾・予備講師」「家庭教師」と掛け持ち率

		1つ	2つ以上	合計
塾予備講師	度数	27	22	49
	割合	55%	45%	100%
家庭教師	度数	19	32	51
	割合	37%	63%	100%

そこで「塾・予備講師」「家庭教師」別に見たものが表6であるが、両者の掛け持ち率は、ともに31%を越えて「塾・予備講師」で45%、「家庭教師」で63%であった。しかし、両者は勉強を教えるという点で似たような職種であるのにもかかわらず、掛け持ち率では「家庭教師」の方が20%近くも上回っていた。そして、「家庭教師」は掛け持ちをしている人の方が多いのだが、「塾・予備講師」は掛け持ちをしている人の方が少なかったのである。つまり、期待した相関関係は得られず、仮説は成り立たないことが分かる。

これは「塾・予備講師」には遅刻や欠席によって罰金が発生するなどの規則があり、授業以外にも事務的な作業が多くあるからではなかろうか。この事務作業で「塾・予備講師」は時間外労働が多いという話も聞く。よって、両者はともに週当たり少ない日数で行うことができるが、「家庭教師」に比べて「塾・予備講師」は負担が大きいと思われる。こうした点から、アルバイトの掛け持ちをしようというときに「家庭教師」に比べて「塾・予備講師」は選びにくく、掛け持ち率に差が生じたのではないだろうか。

検証結果①：【自宅】の掛け持ち率は高いが、「塾・予備講師」は掛け持ちをしている人の方が少ないために、掛け持ち率は特徴①の根拠にはならない。

2. 検証②「情報源」

ここからは、また別の視点から検証してみよう。

表7 住居別のアルバイト情報源

		新聞広告	インターネット 広告	アルバイト 情報誌	以前からの 付き合い	学生課	友人・知人の 紹介	職場の前を 通りかかって	その他	合計
自宅	度数	8	3	19	14	1	31	10	16	102
	割合	8%	3%	19%	14%	1%	30%	10%	16%	100%
自宅以外	度数	1	3	10	3	3	12	10	7	49
	割合	2%	6%	20%	6%	6%	25%	20%	14%	100%

表7は、回答者が最も時間を割いているアルバイトを何によって知ったのか、その情報源を住居別に示したものである。【自宅】の割合が上回った情報源は「新聞広告」「以前からの付き合い」「友人・知人の紹介」「その他」であった。

このうち【自宅】で「新聞広告」が上回った理由は、【自宅以外】がほとんど新聞を取らないからであり、「以前からの付き合い」「友人・知人の紹介」は【自宅以外】が新生活によって大学入学以前の付き合いが減った（または、なくなった）からであろう。

ここで、特に注目したい情報源は「以前からの付き合い」である。と、いうのも「塾・予備講師」は、受験生のときに自分が通っていた塾・予備校でアルバイトをしている者が多いのではないかと思ったからである。大学入学とともに塾・予備校側から「うちでバイ

トをしてみないか」と話がかかるといことを聞いたこともある。これは顔なじみという点で塾・予備校側にも学生側にもメリットがあり、さらに学生にとってはアルバイトを探すという手間も省けるのである。

受験時に塾・予備校へ通っていた者は多いであろうから、「塾・予備講師」でアルバイトをしている者のうち、情報源が「以前からの付き合い」である者は、他の職種に比べて多くなっているはずである。

表 8 職種と情報源「以前からの付き合い」

	塾・予備講師	家庭教師	その他	合計
度数	8/46	7/51	6/101	22/198
割合	17%	14%	6%	11%

すると「以前からの付き合い」でアルバイトを知った者は全体で 11%と少ないのだが、「塾・予備講師」は 17%で一番多いことが分かった。[表 8]

通常、受験時に通う塾・予備校は家の近隣、あるいは近隣でなくとも家から通いやすい場所を選択するはずである。すなわち、自宅から離れて生活を送る【自宅以外】では自分の通っていた塾・予備校でアルバイトをしている者は、ほとんどいないのではないかと推測できる。以上から、次の仮説が構成できよう。

仮説②：【自宅】は「塾・予備講師」を「以前の付き合い」によって始めることができるために、【自宅以外】に比べて「塾・予備講師」をしている人が多い。

次の表 9 は「塾・予備講師」を何によって始めたか、を住居別に見たものである。

表 9 住居別「塾・予備講師」の情報源

		新聞 広告	イン ター ネ ッ ト 告 白	ア ル バ イ ト 情 報 誌	以 前 か ら の 付 き 合 い	学 生 課	友 人・ 知 人 の 紹 介	職 場 の 前 を 通 り か か つ て	そ の 他	合 計
自 宅	度数	3	1	6	8	—	14	2	5	39
	割合	8%	3%	15%	21%	—	36%	5%	13%	100%
自 宅 以 外	度数	—	1	3	—	—	1	1	1	7
	割合	—	14%	43%	—	—	14%	14%	14%	100%

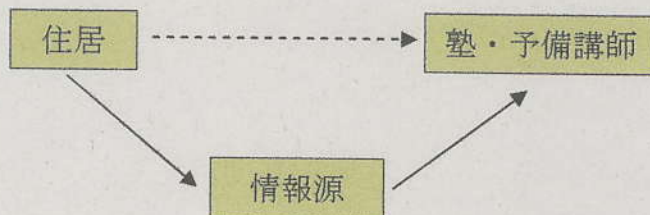
すると、【自宅】は「友人・知人の紹介」の 36%に次いで「以前からの付き合い」が 21%を占め、【自宅以外】は「アルバイト情報誌」の 43%が一番多く、「以前からの付き合い」はゼロであった。【自宅以外】の有効回答数が 10 にも満たないために、「以前からの付き合い」がゼロとなった可能性は高いが、少なくとも今回の調査からは次のことが言えよう。

検証結果②:【自宅】は「塾・予備講師」を「以前からの付き合い」によって始める者が【自宅以外】より多い。

3. 結論

以上の検証結果から、特徴①に関して図6のように図示できる。

図6



今回の考察は、住居が直接「塾・予備講師」に影響を与えているというよりも、住居によりアルバイトの情報源が制限され、つまり【自宅以外】は「以前からの付き合い」の情報源が少なく、受験時に自分の通っていた塾・予備校でのアルバイトが困難なために差が生じた、という事を示唆している。

むろん、他の要因も考えられるが、今回はこれを結論として調査報告を終えよう。